

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1182
施設名	あおば保育園西が丘
施設所在地	東京都北区上十条5-12-8
法人名	社会福祉法人あおば会

1, 活動のテーマ

《テーマ》

園内のフリースペースやクラス内スペースを活用した運動あそび

《テーマの設定理由》

園庭がないため、日常的に子どもたちが十分に身体を動かして遊ぶ機会の確保が課題となっている。さらに、近年の気候変動により散歩の実施が難しい日も増え、子どもたちの活動機会が制限されている現状がある。

そこで、園内のフリースペースやクラス内スペースを活用し、天候に左右されず身体を使った遊びを楽しめる環境を整備する必要があると考え、本活動を計画した。

2, 活動スケジュール

実施期間 : 令和7年11月から令和8年3月

実施回数 : 雨天時は毎日

対象クラス: 全クラス

保護者共有: 園内掲示にて活動内容を報告

3, 活動の為に用意した土台

- ・三輪車
- ・ビックライダー
- ・アスレチックブロック
- ・かるかるマット

4, 探究活動の実践

《活動の設定と内容》

3歳未満児：子どもたちが体を動かす心地よさや楽しさを感じられるよう、粗大遊具や用具を組み合わせ、登る・くぐる・またぐなどの動きを取り入れながら、無理のない範囲で全身を使って遊ぶ経験を重ねていけるようにした。

3歳以上児：冒険や探索への興味を踏まえ、複数の粗大遊具や用具を組み合わせた環境を設定した。子どもたちが自ら移動しながら遊びを展開し、身体を十分に動かすことで、楽しみながら体力の向上につなげていけるようにした。

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

3歳未満児：室内に設置したマット、すべり台などを組み合わせた環境の中で、子どもたちは自ら遊び方を考えながら、登る・渡る・すべるといった運動遊びを主体的に楽しんでいた。特に、「登る」動きに興味をし「ここから行けるかな」「ちょっと難しいかも」と自分なりに見通しを持ちながら挑戦する姿が見られた。

3歳以上児：園内のフリースペースにてビッグライダーに乗り、アスレチックブロックやかるかるマット等で作った障害物を避けながら冒険遊びを楽しんでいた。また、ブロックやマットに登ったり飛んだり等楽しい雰囲気の中で全身を使った運動遊びを楽しむ姿が見られた。「もっとやりたい」との声も多く、フリースペースでの活動を楽しみにする子どもが多くなった。



5, 振り返り

《振り返りによって得た先生の気づき》

3歳未満児クラス

子どもたちは一つの遊びにじっくりと向き合う姿が増え、繰り返し遊ぶ中で身体の使い方を自ら調整しながら遊び込む様子が見られるようになった。また、保育者や友だちの動きを模倣する姿や、「もう一回」「できた」といった簡単な言葉や仕草で思いを表現する場面も増えている。

これは、以下の5領域の育ちにもつながっていると考えられる。

健康：全身を使った遊びを通して、基本的な運動機能が養われ、身体を動かす心地よさを感じる姿が見られる

人間関係：保育者との関わりの中で安心して遊び、友だちの存在に気づきながら同じ場で遊ぶ経験が増えている

環境：様々な遊具に触れることで、素材や形状の違いに興味を持ち、自ら関わろうとする姿が見られる

言葉：遊びの中でのやり取りや模倣を通して、言葉や表現の幅が少しずつ広がっている

表現：身体の動きや表情、声などで喜びや達成感を表現する姿が見られる

このように、環境の充実は単なる遊びの幅の拡大にとどまらず、子ども一人ひとりの主体性や発達を支える重要な要素であることを改めて実感している。

3歳以上児クラス

子どもたちは自ら目的地までたどり着く方法を考えたり、遊び方を考えたりと試行錯誤を重ねたりしながら、長時間にわたって主体的に遊び込む姿が見られるようになった。また、友だちと一緒に遊ぶ中でルールを作ったり、順番を守ったりするなど、遊びを通した関わりも深まっている。

これらの姿は、以下の5領域の育ちにもつながっていると考えられる。

健康：多様な動きを経験することで体力やバランス感覚が養われ、進んで身体を動かそうとする意欲が高まっている

人間関係：友だちと関わりながら遊ぶ中で、協力や役割意識、ルールの理解が育まれている

環境：遊具や用具の使い方を工夫し、自ら遊びを発展させていく姿が見られる

言葉：遊びの中でのやり取りを通して、自分の考えを伝えたり相手の思いを受け止めたりする力が育っている

表現：身体の動きや遊びの構成を通して、自分なりの表現や工夫が見られる

このように、環境構成を見直したことで、単に集中力が持続するようになっただけでなく、子どもが主体的に関わり、考え、他者と関係を築きながら遊びを深めていく姿へとつながっている。今後も子どもの発達や興味の変化に応じて環境を柔軟に見直し、より豊かな遊びの保障につなげていきたい。